

## 2020年度 事業計画

### 事業計画

事業はすべて公益事業とし、3つの目的を持って構成する。

#### 1 リーダー育成

1. 東南アジアで行う海外研修 ①「GET」(Global Education Training) 海外研修事業
2. アジアからの来日研修者受け入れ ①「さくらサイエンスプラン (JST)」による招へい事業
3. 年間を通じたユースリーダー育成プログラム ①「LEP」(Leaders Education Program) 育成事業  
・GET参加後→さくらサイエンスプラン/AJAF-21テレビ会議/滞日留学生との交流/  
異業種交流研修会/若者力大賞などに参加

#### 2 社会啓発

1. 若者が挑戦できる社会づくりへ  
①「表彰制度/若者力大賞」 ②「受賞者講演会」(地方・企業・学校)  
③「広報活動」(HP・SNS・広報誌)

#### 3 つなぐ

1. 国内  
①「異業種交流研修会」(中堅幹部社員、学生) ②「アジアの会(大阪)」(一般対象)
2. 海外  
①「AJAF-21」との関係構築促進 ②「企業とASEANとをつなぐ企画の推進」

### お知らせ

2020年8月に予定していた海外研修「GET2020夏ベトナム(ハノイ)」は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を鑑みて、開催を見送らせていただきました。次回開催は未定です。今後の最新情報はGETホームページ(<https://day-get.com>)をご覧ください。

<https://day-get.com>

GET海外

検索



### ADMISSION

#### 入会のご案内

当協会は、協会の活動にご賛同いただく皆様からのご支援で運営されています

**【会員資格】** 当協会の活動にご賛同いただける方でしたら、どなたでもご入会いただけます。

**【会費】** [法人会員] 600,000円(年間) [個人会員] 一口5,000円 ※一口以上(年間)

\*法人の方は、所得控除の適用となります(非課税扱い)。\*個人の方は、所得控除・税額控除のいずれかを適用できます。

●ご入会希望の方は下記までお問い合わせください

【お問合せ】  
公益財団法人  
日本ユースリーダー協会

〒107-0052 東京都港区赤坂1-1-14 野村不動産溜池ビル5F  
TEL: 03-6441-0581 FAX: 03-6441-0582  
web: <https://www.youthleader.or.jp> mail: [day@youthleader.or.jp](mailto:day@youthleader.or.jp)



当協会の  
ホームページ  
はこちら

若者力は明日の社会のエネルギー

# YOUTH LEADER

Development Association for Youthleaders

## 2020 SPRING Vol.148



公益財団法人

日本ユースリーダー協会

DEVELOPMENT ASSOCIATION FOR YOUTHLIERS

〒107-0052 東京都港区赤坂1-1-14  
野村不動産溜池ビル5F  
TEL: 03-6441-0581 FAX: 03-6441-0582  
web: <https://www.youthleader.or.jp>  
mail: [day@youthleader.or.jp](mailto:day@youthleader.or.jp)

### CONTENTS

2019年度 下半期活動報告	P.02-03
2019年度 下半期活動報告 社会啓発事業(表彰制度) 第11回 若者力大賞 表彰式	P.04-07
第32回 異業種交流研修会	P.08
LEP(Leaders Education Program) 活動報告	P.09
さくらサイエンスプラン	P.10
AJAF-21	P.11



# 2019年度下半期活動内容

Second half activities report of 2019

10月

**4 金** 「AJAFA-21/Regional Leaders Forum(インドネシア)」開催  
ASEAN と日本との交流組織 AJAFA-21 が毎年開催している RLF (Regional Leaders Forum)。10月4日-7日、各国から100名を超す若い世代の参加のもと、インドネシア・バリで開催。協会からは安部事務局員が参加しました。→報告(11ページ)



**8 火** 「第15回JICA理事長賞」受賞  
JICA(国際協力機構)では、毎年、国際協力事業を通じて、開発途上国の人材育成や社会の発展に貢献した個人や団体に対して、その功績をたたえて表彰を行っています。当協会は、今年度「第15回JICA理事長賞」を受賞し、その表彰式が、10月8日(火)、JICA市ヶ谷国際会議場において行われました。◆当協会への授賞理由:①青年招へいを開始した当初からの実施団体として、青年研修の実施に貢献。②ASEAN地域の帰国研修員同窓会設立の際には、同連絡会との定期会合等を通して、日本と帰国研修員とのネットワークの強化に貢献。



**23 水** 「10月度運営幹事会」「月次会計監査」実施  
10月度の執行理事会議(=運営幹事会)を、10月23日(水)協会事務所で開催。資金繰りの状況報告、会計監査報告、各委員会から活動報告などが行われました。同日、運営幹事会に先駆けて、監事の谷中和也税理士による月次会計監査を行いました。以後、運営幹事会開催日に合わせて毎月実施。

**23 水** 「財務・組織委員会」開催  
10月度の財務・組織委員会を、10月23日(水)、協会事務所で開催。このあとも、運営幹事会の開催日に合わせて毎月開催いたしました。

**25 金** 「さくらサイエンスプラン(インドネシア高校生)来日研修」実施  
国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)による、アジアの青少年のための科学技術研修支援事業「さくらサイエンスプラン」。10月25日(金)~31日(木)の7日間、インドネシアから高校生15名が来日し、科学技術関連施設の見学や体験学習、さらには日本の学生との交流も交えて研修を行いました。→報告(10ページ)

11月

**6 水** 「2019年度 第3回理事会」開催  
2019年度第3回理事会を、11月6日(水)に開催。理事総数20名のうち、14名の本人出席で行なわれました。本会議では審議事項はなく、上半期の活動報告のあと、ASEANとの交流ネットワーク「AJAFA-21」の活動について意見交換が行われました。



**11 月** 「第8回 会長サロン」開催  
法人会員企業の代表者との活動報告会兼懇談会:「会長サロン」。今年度で第8回目となる会合を11月11日(月)、芝パークホテルで開催。当日は、16社の会員代表者の方々にご参加いただき、2日前(11/9)に、天皇ご即位の祝賀国民祭典を無事終えられたばかりの三村会長を囲み、西尾副会長をはじめ参加者による懇談が進められました。



**19 火** 「11月度運営幹事会」「月次会計監査」実施

**21 木** 「第66回 アジアの会(大阪)」開催  
通算第66回目の「アジアの会」が、11月21日(木)「ハービス大阪・ガーデンシティクラブ」において開催されました。講師には、白鳥正夫氏(文化ジャーナリスト)をお迎えし、アジア各地を訪ねてこられた記録画像を交えて、各地の近代化の様子をご紹介いただきました。

**25 月** 「さくらサイエンスプラン(中国・教師)来日研修」実施  
11月25日(月)~29日(金)の5日間、中国から高校教師13名を迎えて研修を行いました。→報告(10ページ)

12月

**2 月** 「第11回若者力大賞 第5回実行委員会」実施  
審査委員による最終審査が終了し受賞者が決定。第11回若者力大賞受賞者のプレス発表を前に、通算第5回目となる実行委員会を開催。

**9 月** 「内閣府 立入検査(3年に1回)」実施  
3年に一度の内閣府による定期立ち入り検査が、12月9日(月)協会事務局で行われ、ガバナンス体制や各種管理の実施状況等について細部にわたり検査が行われました。

**18 水** 「12月度運営幹事会」「月次会計監査」実施

2020  
1月

**19 木** 「第41回 AJAFA-21 TV会議」実施  
ASEAN 各国と日本をつなぐ今年度第3回目(通算第41回目)のTV会議を、12月19日(木)、日本のJICA本部と各国のJICA事務所を結んで開催。10月4日~7日に行われたRLF(Regional Leaders Forum)(開催地:インドネシア)の実施報告や、2020年2月の第32回代表者会議(ECM)(開催地:タイ)についての説明などが行われました。



**22 日** 「GET2020春(ベトナム・ハノイ)個別説明会」実施  
2020年3月に計画しているGET(ベトナム・ハノイ)への参加学生の募集の一環として、個別説明会を協会事務局で開催。

**15 水** 「第11回若者力大賞 第6回実行委員会」実施  
開催を1か月後に控えて1月15日(水)、当日の実施運営等について実行委員会を開催。新たな試みとして第二部の交流会を、より参加者同士の懇親が深められるように、会場移動の前に周囲のグループで簡単な自己紹介や受賞者への感想などを紹介し合う「シェアタイム」を設ける。交流会場では、各受賞者に分かれてテーブルについてもらうなどのプランが話し合われました。

**16 木** 「1月度運営幹事会」「月次会計監査」実施

**20 月** 「第32回 異業種交流研修会」開催  
企業の中堅幹部社員や若手経営者を中心とした社会人向け研修会「第32回異業種交流研修会」を1月20日(月)、日本青年館ホテルで開催。今回の講師には、(公財)フォーリン・プレスセンター理事長 赤坂清隆氏をお迎えして開催いたしました。→報告(8ページ)

2月

**14 金** 「2月度運営幹事会」「月次会計監査」実施  
2月度の執行理事会議(=運営幹事会)を2月14日(金)、協会事務所で開催いたしました。新型コロナウイルスの脅威が世界的に高まりつつある中で、3月に計画しているGET(ベトナム)の開催について協議し、その結果、今回の実施は見送ることと決定しました。これに合わせて、各関係先へのキャンセル手配、参加学生への連絡・返金等の事務作業を遺漏なく行いました。

**18 火** 「第11回若者力大賞 表彰式」開催(第二部交流会中止)  
通算第11回目を数える「若者力大賞・表彰式」を、2月18日(火)、東京・六本木の「ハリウッドホール」で開催。ここでも、新型コロナウイルスの脅威から、第二部「交流会」は中止とし、表彰式のみで開催となりました。→報告(4~7ページ)

**20 木** 「第67回 アジアの会(大阪)」開催  
通算第67回目の「アジアの会」を2月20日(木)、「ハービス大阪・ガーデンシティクラブ」において開催。講師には、藤田悟氏(龍谷大教授)をお迎えし、「ASEANから見た日本、中国、東アジア」と題してご講演をいただきました。

**21 金** 「AJAFA-21 ECM(代表者会議(タイ))参加を見送り」  
「AJAFA-21」の代表者会議は2月21日-24日、タイ・バンコクで開催されました。当協会からは隈丸理事、村岡理事ならびに金沢理事の参加を予定していましたが、これも新型コロナウイルスの影響により、日本(当協会)からの参加は見送り、カントリレポートを提出して活動報告を行いました。

3月

**1 日** 「GET2020春(ベトナム・ハノイ)事前研修会」開催中止

**12 木** 「3月度運営幹事会」「月次会計監査」開催中止

**12 木** 「忘れない3.11(Vol.9)」開催中止

**19 木** 「若者力大賞受賞者講演会/都立永山高校」開催中止  
若者力大賞の受賞者の講演を、高校生や大学生にも聞かせたいという意図から、初めての企画として、第10回若者力大賞の受賞者:秋本可愛さんと、都立永山高校の生徒をつなぐ「受賞者講演会」を、3月19日(木)に計画していましたが、生徒への影響を考慮し開催は中止となりました。

**19 木** 「2019年度第4回理事会」開催中止  
3月19日(木)に開催を予定していた「2019年度第4回理事会」は、会議の開催は見送り、定款に定める(決議の省略)を適用し、書面による審議を行ないました。決議省略の同意と合わせて、決議事項2件:①2020年度事業計画 ②2020年度収支予算計画について全理事の承認回答により、議案は原案通り決議されました。

**26 木** 「2020春GET(ベトナム・ハノイ)」催行中止  
今回で通算23回目となる海外研修「2020春GET(ベトナム)」は、3月26日(木)~4月2日(木)の8日間の日程で行われる予定でしたが、新型コロナウイルスの影響から2月14日(金)の運営幹事会で催行の中止を決定し、19名の参加学生からは「残念!」という声を多くいただきながらも、やむを得ずの中止を承諾していただきました。

定例会議開催中止に対する対応について  
新型コロナウイルスの影響を考慮し、いくつかの定例会議開催を中止いたしました。Web会議等による審議・協議を行い、運営に支障の無いよう可能な限り最善の対応を行いました。

# 社会啓発事業「第11回若者力大賞表彰式」

The 11th Youthleader Awards

「若者力大賞」は、社会のための活動に努力を惜まず取り組む若者たちと、そうした若い世代の育成に取り組む指導者たちを表彰して、次世代育成に対する社会の関心を高めることを目的に、協会設立40周年（2009年）を記念して創設されました。

## 第11回「若者力大賞」表彰式

**【日時】** 2020年2月18日(火) 18:00~19:30 (※第二部交流会は中止)  
**【会場】** 六本木ヒルズ ハリウッドプラザ「ハリウッドホール」 **【受賞者】** 別掲  
**【審査員】** 審査委員長／三村明夫(当協会会長／日本製鉄株名誉会長)  
 (敬称略) 審査委員／西尾進路(当協会副会長／JXTGホールディングス株名誉顧問)  
 山中祥弘(学校法人メイ・ウシヤマ学園理事長)  
 橋本久美子(橋本龍太郎元首相令夫人) 蛭田史郎(旭化成株相談役)  
 永野 毅(東京海上ホールディングス株会長) 中村公一(山九株会長)

### ◆開会挨拶(三村明夫・協会会長)



社会には様々な課題が存在しています。しかし我々はその存在に気づいても立ち止まるだけで、なかなか一歩前に踏み出せません。その中で、自らの問題として課題を解決しようと、真正面から取り組む若者たちがいます。しかし、社会課題の解決に挑むということは、そう簡単なことではありません。持続可能性がなければ、その活動は続かない。どうやって持続可能性を担保するのかというの、彼らの役割の一つです。

この後の彼らの話を聞いて、まずは感動していただきたい。そして少しでも力を貸してあげられることがあれば応援してあげて欲しい。例えば、お帰りの後にご家庭や会社で、周りのみんなに話して伝えてあげるのも立派なサポートです。ぜひ、彼らの活動を理解し、若い彼らを少しでも応援していただきたいと願っております。

### ◆審査報告(池本修悟・大賞実行委員長)

今回の実行委員会は、学生から社会人、過去の受賞者も含めて15名の委員で構成して発足いたしました。5月から7月まで推薦公募を行い、最終的に今年度は47組の応募がございました。

実行委員会において、選考基準をもとに数回にわたり評価検討を重ねて上位者を選考し、そのあと9月から10月にかけて最終候補者とおひとりづつ面談を行いました。そして最終の審査が11月、審査委員の皆さんによって行われ、今回の受賞者が正式に決定いたしました。

先ほど、受賞者と審査委員の皆さんが別室で懇談されましたが、受賞者の皆さんからは、力強い、希望にあふれたお話を聞かせていただいて、あらためて、私も「よし、がんばろう!」という気持ちにさせられました。この後のスピーチをどうぞお楽しみください。



### ◆全体感想(永野 毅・審査委員)

心から胸を打たれました。皆さんのプレゼンテーションが上手だったからでなく、皆さんのその本物の心の勇氣、心からの課題認識、そして社会の課題を少しでも良くしようという努力。それも何年も何年も継続している。そういう本物の思いが私たちの心の中に届いたからです。

日本の若い人たちは最近、夢を持たなくなってきた、自分から発信しなくなってきた。皆さんを見ているとどこが違うのだろうか。お話を聞いていて思ったのは、強烈に刺激を受けて強烈に気づく。気づくからこそ何とかしなくちゃという強い思い。それがいまの若い人たちには足りないんじゃないか、と思います。そこで今この協会では、若い人たちに早いうちから気づきの場を提供しようといういろいろと取り組んでいます。

今日は大企業のトップの方々もたくさん来ておられます。大企業も、単に利益のために営んでいるわけではない。その利益を社会に役立てるといことも大事だが、それよりもっと、社会にある課題を解決することで、企業は持続的に成長していくんだということ。これはSDGsをさらに超えて進んだ考え方だと思っています。ぜひ一緒にやれるところは協力していきたい。今日は、本当にありがとう。



**若者力大賞** たかま こうじ  
**高濱 宏至さん**  
NPO法人Class for Everyone 代表理事

私は子供が大好きです。子供と接することに本当に喜びを感じています。今日も会場に小さな子がいてうれしくなります。

私が今の活動を始めたキッカケは、司会の方からいま映像でご紹介いただいたように、フィリピンのスラム街で、道端の縁石で一生懸命勉強している女の子を目にしたことでした。僕も勉強は好きでしたが、さすがに家の外の縁石で勉強する経験はな

## 受賞者スピーチ全文

いですし、必ずそこには机があり電気があり、本や教科書とかいろんなものが揃った環境で育って、これは日本に生まれたということがいかに大きかったかと言うことを実感してきました。世界地図を広げて、そこにダーツの矢を投げたとして、この小さな日本の国に当てられますか? 無理ですね。それぐらい日本という国に生まれたこと自体、私自身ラッキーだったと本当に思います。日本に生まれたという運を、そのまま受け入れるだけでいいのかという思いが私の中にはあって、それを何かに活かしたいと考えていたことが今の活動につながっています。

これまでの活動を示すのに、いろいろな数があります。何社、何ヶ国、何台とか。確かにこれも実績として大事なことです

が、自分として大切にしてきたことはお金をかけずにできるモデルを作ってきたということです。使っていないものをリユースし、0から価値を生み出すことの喜びを感じてきました。何もないことから新しいものを作るのは、子ども達が本当に上手いんです。何もないからこそ子ども達は一生懸命考えて、その辺のものを使っておもちゃを作ったり遊びを作ったりします。この精神は大人になっても大切だと考え、事業に活かしていきたいと思ってやってきました。

人生を車に例えると、どんな車でもガソリン(エネルギー)がなければ動くことはありません。海外から日本に帰ってくると、日本に足りないのは、このエネルギーじゃないかいつも感じています。そして、そのエネルギーは子ども達や若者がたくさん持っています。私自身はもう34歳になりますが、希望を作ってくれるエネルギーのある若い人をどんどん増やしていくことが大事じゃないかと思っています。

今回の受賞は本当にうれしく思っています。次回は、もっともっと若い人たちに、この場に立ってくださるよう願っていますし、そのために皆さんのお力を貸していただけたいと思っています。

今回の受賞は本当にうれしく思っています。次回は、もっともっと若い人たちに、この場に立ってくださるよう願っていますし、そのために皆さんのお力を貸していただけたいと思っています。

今回の受賞は本当にうれしく思っています。次回は、もっともっと若い人たちに、この場に立ってくださるよう願っていますし、そのために皆さんのお力を貸していただけたいと思っています。

### ユースリーダー賞



**ユースリーダー賞** いしい あやか  
**石井 綾華さん**  
NPO法人Light Ring.代表理事(精神保健福祉士)

高校を卒業し、大学に入ってから18歳から30歳までの12年間、子ども・若者の自殺を予防する活動に取り組んできました。いま、日本社会では年間2万人強の方が自殺で亡くなっています。全世代的には減少してきているのですが、その中でも10代の自殺者数だけは高止まりを続けています。

10代など若者の自殺は、高齢者と比べると、唯一、本人の意思が分かる遺書さえない衝動的な自殺傾向が高いことが明らか

にされています。だからこそ、自殺の背景や理由について、本人記録を根拠にした把握や分析ができず、有効な対策が実施されていません。私はこの活動を行う為に、精神保健福祉士の資格を取得しましたが、専門家の数には限りがあります。さらには、日常生活で「死にたい」と思っている人の異変に身近で気付いている人たちが、実は大きな支援可能性を有しています。そんな身近にいる人が、いち早く異変に気づき、手を差し伸べて話を聞き、そして必要があれば専門家につなげていく、そういう「ゲートキーパー」の仲間が必要だと考え、身近な仲間を広めようと、東京を中心に全国で養成活動に取り組んでいます。

具体的にはソーシャルサポートの4つの観点から事業を展開しています。  
 ①悩み・ストレスへの効果的なセルフケア法 ②相談を受ける時の「ちょうど良い距離感」の測り方 ③「相談してよかった」と思ってもらえる傾聴スキル ④深刻すぎる悩みを受けた時の対処法

小・中・高から専門学校、大学まで、これまで13,340名の方がゲートキーパー

の仲間に加わりました。現在、新宿区、港区と行政委託事業として連携しながら広めています。

2016年日本財団自殺意識調査から、若者の4人に1人が「本気で自殺したいと考えたことがある」と示しています。「死にたい」という気持ちは、身の周りにいる同世代の友人や恋人から「死にたいって、あるよね」と分かってくれる人がいるだけでも、問題は解決しなくても、自分の存在が認められ、解消に繋がっていきます。彼らが求めているのは、抱えている問題解決よりも、自分の気持ちを分かってくれたい、自分の存在を認めてもらいたい、その思いです。

Light Ring. は、こうした身近な人の力によって社会の問題を解決することができる信じ、今後も地域社会を担っていく「ゲートキーパー」を養成していきたいと思っています。この賞をいただいたおかげで、活動の方向性は間違っていなかったかもしれないと学生の皆さんと一緒に大きな勇気をいただきました。ありがとうございました。

# 受賞者スピーチ全文

## ユースリーダー賞



### 漫才コンビ オシエルズ

今日は家族も来ています。「すべる」わけにはいきません。(笑)  
我々は普段学校で、「YES」&「心理的安全性」という2つのキーワードで、「いじめ」をなくすためのワークショップ活動を行っています。用意された台本通りのネタをやるのではなく、子供たちか

らネタをもらって、それを丸々受け入れて、新しい笑いを作っていく、ということをやっています。

今日もここで即興の漫才をやらせていただこうと思います。会場の皆様から3つのアイデア(言葉)をいただいて、それを使ってうまいオチを付けた漫才をやってみたいと思います。このうまいオチというのがミソなんです。面白いかどうかは、別なんです。(笑)

それではどんな言葉でも結構です。思いついたらどうぞ。

(客席①)「ユースリーダー」

(客席②)「コロナウイルス」

もうひとつ。あっ！その少年。いいよ、何でもいいよ。(・・・なかなか出ない。しばらく間があって)、

(客席③)「納豆！」(笑)(笑)

ありがとう。ここが大事なところなんです。つい周りの大人はせかしてしまう。でも、子供はいいアイデアを持っ

ているんです。それを出すのを待ってあげることも大事なんです。

それでは、いただきました。3つのアイデアで即興漫才を。

「え〜、我々も若者として、ユースリーダーのひとりとして、やっぱ世の中のために貢献していきたいですね』『おっ！そうだね』『そこで社会に役立つことを思いついた。いま流行りのコロナウイルス。これを治したい』『なるほど』『それを研究してきた。で、それがどうやら、このコロナウイルスには納豆がめちゃめちゃ治りやすいということがわかった！』『ホントにい！?』『ウン！いつ、わかったかという、コロナウイルスだけに、最近(サイキン)です』『うま〜い!!』(笑)(笑)(拍手)

ここで終わると単なる芸人の賑やかになってしまうので、ひとりづつコメントをさせていただきます。



### のむらしんのすけ 野村真之介さん 漫才コンビ「オシエルズ」

名誉ある賞をいただいて本当にありがとうございました。何がうれしいかと言うと、自分たちの活動が最初は、お笑いの世界でも学校でも全然理解してもらえなかった。学校には笑わせる教育はいらぬ、とも言われて苦しかったのですが、ナントか続けてきて、おかげで去年は100校を廻らせてもらいました。(拍手)  
使っていい笑いと使っちゃいけない笑いがあるよね、ということを子供たちと共有しています。ある学校で、女の子が名前に動物の名前が入っていたので、それだからかわられていじめられていた。でも、それがイヤなことだと自分では思っ

てなかった。それが僕たちの講演を聞いて、イヤなことなんだと気づいたから、先生と友達に言えました。言えたら、気持ちがよくくなりました。ありがとうございました。という感想文をもらいました。とても嬉しかったです。これからも笑いの力を使って、こういった勇気を与えられた小さな物語を、学校の中に増やしていきたいと思っています。



### やじまのぶお 矢島伸男さん 漫才コンビ「オシエルズ」

この賞は自分たちにとってゴールではなくて、これからのご期待だと受け止めています。ありがとうございました。

M1グランプリは5,000組から優勝者

を決めます。こちらの若者力大賞は、何千万人という若者の中から選ばれたもので、これ以上にウレシイ賞はありません！(笑)(拍手)

私自身、小さい時に太っていることでイジられ、それが苦痛でした。それがあるとき、お笑い番組を見て、太っているとそんなコンプレックスを、むしろ武器にしているのを見て、お笑いの世界は欠点すべて長所になる素晴らしい世界だと思いました。お笑いの力を使って、傷ついている子供たちを救ってあげたい、そんな思いを強くしたのが高校一年の時でした。それでお笑い芸人を目指しました。

大学の落研にスローガンが飾ってありました。「落研はみなが喜ぶ人のため。(中略)世界中、政治家も教育者もすべて大事なのは言葉だ。笑いを与え、勇気を与える。雄弁は人間にしかできない」これまで延べで50,000人の子供たちに話してきました。これからも日本中のいじめや世界中のいじめ、人を傷つける笑いを、この社会からなくしていきたいと思っています。

## ユースリーダー支援賞・個人部門



### よこやま たろう 横山 太郎さん 緩和ケア内科医

さきほど、オシエルズさんのコント中に「納豆！」と言った子供の親であります。(笑)

私は医師です。がんの診療を主に担当しています。現在は自宅で過ごしたい方のために訪問診療をしています。昨今の抗がん剤治療はともにお金がかかります。日本は皆保険ですから、今後の医療をどうするのか考えていく必要があると感じていました。ASEANの会議に出た時も、日本の医師は今後の皆保険で行う医療をどう考えているかと聞かれました。その時は、自分が考えていることし

か答えられませんでした。もっと、こういったことを多くの人が学び、話し合う必要があると感じました。

自分が周りの医師と比べて考えるようになったのは、研修医の頃に先輩からの教えがあったからだとか気が付き、であれば自分も次の世代に伝えていくことが大事だと考えました。そこで、中学生・高校生に対して、実際の医療の現場を体験してもらい、課題だと思ったことに対し、明日からできることを考えて実行するという会を6年前から文部科学省の委託事業をきっかけで、開始しました。

なによりうれしいのは、これからの人生を、医療にかかわることを覚悟して医学部に進学する生徒が、この会から数名出てきたことです。ただ、はじめは怖かったです。決して良いことばかりではない医療の世界を、自分はキレイに見せすぎではないかと思ったからです。しかし、志望した生徒からしっかりとした言葉を聞け、自分のライフワークとしてこれからも続けていきたいと思っています。

自分がいま課題だと思っているのは、孤立です。日本は長寿大国ですが、自殺の原因である社会的孤立はOECDで最

下位です。長寿を願ひ実現し、今度は高齢化問題だと言う。高齢化問題の「問題」という言葉を付けない世の中にしていきたいと思っています。認知症。認知症がいけないんじゃない、認知症になった方々が、一緒に生活できない社会がいけない。そんな観念を持った医療や社会を作っていくことが大事じゃないかと思っています。

さきほど三村会長が社会のための活動は持続性が大事とおっしゃいました。私は、こういった活動は、医師がもっとやるのが良いと思っています。これからの社会課題が健康問題であることが多いので親和性が高いと思っています。CSRという言葉の「C」をコーポレーションでなくクリニックに置き換えて、今まで対峙してきた病気だけでなく、社会的な生活部分の維持・改善にも取り組む。そうすることで医師は病気を見てきた時代から、健康を守る時代が変わってくると感じています。そうすれば社会的な孤立が少しは減るのではないのでしょうか？ そうなるように周りの仲間たちにも呼びかけていきたいと思っています。

## ユースリーダー支援賞・団体部門



### NPO法人アジア人文文化交流促進協会 代表 楊 森さん

素晴らしい賞を頂戴いたしまして法人関係者一同、大変喜んでます。

20年前に留学生として日本に来た時は、知り合いが一人もなく、日本語もほとんど話せませんでした。自分と社会との境界線がくっきりと感じられて、いつも孤独でした。そんなある日、道に迷って身振り手振りで道を尋ねたら、私の行きたいところまで連れて行ってくれた時、こんなに親切な人がいるんだと感動しました。それから日本語を一生懸命学

びました。周りから聞こえてくる日本語をひたすら真似して、よく行く飲食店で「大盛り！」を覚えました。(笑)

大学に入って心理学を学ぶことになって、アメリカに行こうと思いましたが、しかし尊敬する恩師から、「一つの国の言葉と文化をマスターしてからでないと、どこへ行っても中途半端になる」と忠告を受けて、そのおかげで腰を据えて日本のことを学ぼうと思ったのです。

大学を卒業して日本の会社に就職し、上海に駐在してから日本に戻って子供が生まれた時、初めて、これまで感じたことのない焦りと不安に襲われました。赤ちゃんを連れて育児サークルに行ったとき、外国人と言ったら、瞬間にその場の雰囲気が変わったのを感じました。だんだんシンドクなってきた育児サークルをやめました。そこで、外国人同士のネットワークを求めようと思ったのですが、そこでも驚くような声が聞こえてきました。『出産で入院した病院で看護師たちが、日本語話せないから説明しなくていいよ、と言うのが聞こえて不安に

なった』とか。外国人の友人の多くは、それは仕方がないと言います。でも私は納得できなかった。なぜなら私の知っている日本はそうではなかったからです。自分でも何かができるはずだと思って退職して、NPO活動に専念しました。外国人住民を助けるだけではなく、日本社会とのつながりにもこだわりました。

私の子供たちは日本と中国の文化を持っています。同じように日本以外のルーツを持つ子は、毎年日本で3万人以上生まれています。その子たちも、この社会をより豊かに、より魅力的にするための希望です。文化と言うと、芸術や伝統文化を思いがちですが、子育ても、医療や教育も、離乳食や塾もみんな文化です。その社会で暮らす人々がつくりあげてきた暮らし方こそ、身に染み込文化です。外国人住民は情報を必要としています。でもそれ以上に、社会から孤立せず、リアルな文化を持つ日本人住民とのつながりを求めています。分断はあってはならない。お互いに自分の文化を伝え、相手の文化を楽しもうではありませんか。

第32回「異業種交流研修会」

Cross-industry Exchange Workshop

テーマ

これからの世界と日本の若者 ～不確実な時代をどう生きるか

日時・場所 2020年1月20日(月) 18:30~21:00 日本青年館ホテル

講師

公益財団法人フォーリン・プレスセンター理事長 赤阪清隆氏



「第32回異業種交流研修会」を、1月20日(月)日本青年館ホテルで開催いたしました。講師には、公益財団法人フォーリン・プレスセンター理事長の、赤阪清隆氏をお迎えし、外務省で数々の国際機関でご活躍された外交官としての目から見た日本の。とりわけ、わが国の若い世代のもつ意識について、その実態と、これから期待することなどを、熱く語っていただきました。

当日は、会場満席の中で講演後の質問も多く出て、最後まで熱気あふれる講演会となりました。その中には、当協会の海外研修(GET)に参加した高校生や大学生も参加。交流会場でも講師や、企業関係の方々とお話を交わし、大きな刺激を受けていました。終了時間の最後まで、会話の弾んだ研修会となりました。このように、海外研修GETに参加した学生たちにも、社会人向けの研修や講演会に参加してもらえるような取り組みを行っています。

※「LEP (レップ)」については9ページをご覧ください。



講演要約

1 これからの世界は「VUCA (Volatility (変動性)・Uncertainty (不確実性)・Complexity (複雑性)・Ambiguity (曖昧性))」すなわち不安定で不確実な将来。

2 日本は特に「VUCA」への対応能力が弱い。

3 日本の将来のためには、世界で活躍するグローバル人材が求められる。



4 グローバルに働くことの魅力は大きい。(仕事の充足感・生きがい・多様な視野・社交力・高い報酬・職場環境など)



5 しかし海外留学や海外で働く意欲が極めて低い。

日本の若者は「マイルドヤンキー」(情報原田曜平)
従来のヤンキーほどの攻撃性・違法性がなく、本物の不良にもなり切れない若者。強い地元志向、内向的、低い上昇志向。
● 地元(家から半径5km)から出たくない
● 通出はしない
● 仲間と群れるのが好き
● 「群」「家族」「仲間」という言葉が好き
● 車(特にミニバン)が好き
● ショッピングモールが好き



6 自分自身や国の将来に対する意識も、各国よりもはるかに低い。

Table comparing awareness of global issues across countries like USA, UK, etc.

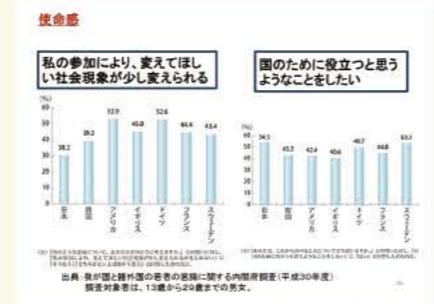
7 そこでどうすれば人材は育つか。
①強い好奇心 ②コミュニケーション能力 ③英語能力 ④海外留学 ⑤自分自身に自信 ⑥使命感

本底佑 (2018年ノーベル生理学・医学賞)
「6つのO」を大切に、輝かしい未来を運んでいただきたい!
好奇心を忘れず、勇気をもって、困難な問題に挑戦し、必ずできるという確信を持ち、全精力を集中して、あきらめずに継続させること。
◆ Curiosity ◆ Confidence
◆ Courage ◆ Concentration
◆ Challenge ◆ Continuation
(出典:2017年、本底氏の作新学院高校への手紙)

8 その中で英語を学ぶには、「YouTube」を薦める。

英語を、生涯かけて、楽しんで学ぶ
「英語を学ぶことが自分にとってどのような意味を持つのかを考え、自立的に、地道に、着実に、学習を継続したいものです」(高須玖美子「本物の英語力」)
「言葉は一種の習慣だから、続けていないと忘れてしまう。英語の学習は一生続く作業だ。進歩を目指すのは楽しい。英語学習を一生の楽しみに!」(小松達也「英語で話す中心」)
YouTubeの活用がおすすめ

9 そして何より、少しでも社会を変えたいと思う強い使命感を持つこと。



LEP (Leaders Education Program)

Leaders Education Program



参加者の声

佐藤喜一さん

GET 参加コース: 2018 春インドネシア (ジョグジャカルタ)
当時: 東京経済大学 / キャリアデザインプログラム 1年
現在: 日本大学通信教育部 / 法学部 政治経済学科 入学予定
LEP 参加プログラム: 2019年1月 / さくらサイエンスプラン (ベトナム人高校生との交流)、2019年10月 / さくらサイエンスプラン (インドネシア人高校生との交流)、2020年1月 / 第32回異業種交流研修会 (赤阪氏講演会)、2020年2月 / 第11回若者力大賞表彰式 (学生スタッフ)



~ LEPに参加して ~

さくらサイエンスプラン、異業種交流会、若者力大賞などの事業も全く違うものですが、GET 参加者が参加しているという点が一番大きいと思います。他コース参加者と活動するという事は参加者が他国で学んだことや現在学んでいることを共有することができ、修了後の自身の学びや進路へのヒントになると思います。実際大学に入りインドネシア語を学びたいという高校生がインドネシア語を学んでいる大学生とつながっていました。私自身も高校生がSDGsやマイクロプラスタック、子ども食堂などについて話し合っている姿をみてとても刺激を受けました。



~ GETに参加して ~

日本と同じ島国でありながら多民族国家、イスラム教国、発展途上国という違いもあるインドネシアで多様性を感じることができました。引率してくださった方も様々なキャリアを経ているので相談しやすく、「いわゆる普通の就活」をするか悩んでいた私にとって新しい進路を見つけることができました。

~ 今後について ~

私はGETやLEPを通じ外国人と触れ合い多様性を感じ、交流会で企業の方々の言葉聞き、協会の公益性や将来性の高い活動を目にしました。これらの経験から私は将来政治に携わり、地元の街から日本をより良くしていきたいと思うようになりました。また、GET・LEPで出会ったメンバーとの関係も継続し、お互いの活動の報告やアドバイスをし高めあえたらと思います。



~ その他 ~

参加者はどのコースでも自主的に活動している子が多く、会うたびに刺激を受けます。GETやLEPで出会ったメンバーとは修了後も定期的に会い、ご飯を食べながら旅行の計画をしたり進路の相談をしたりととても仲が良いです。本来なら出会うはずのなかった他校や年齢の違う人と出会えるということはなかなかないのでコミュニティも広がります。GET修了生はLEPへの参加をぜひ検討してみてください!



佐々木陽向さん

GET 参加コース: 2018 夏ベトナム (ハノイ)
当時: 埼玉県立和光国際高等学校 / 外国語科 2年
現在: 北京語言大学東京校 / 中国語学部 中国語学科 1年
LEP 参加プログラム: 2019年1月 / さくらサイエンスプラン (ベトナム人高校生との交流)、2020年1月 / 第32回異業種交流研修会 (赤阪氏講演会)、2020年2月 / 第11回若者力大賞表彰式 (学生スタッフ)



~ LEPに参加して ~

LEPに参加してみて、私は初対面の人と話す楽しさを知りました。高校という枠から1歩外に出て、日本中から集まった学生、そして大人の話聞くことは確実に私の考えや行動を変えてくれました。

~ GETに参加して ~

まずGETでは、1人で行動し考える力がついたと思います。同じ高校の人が1人もいないグループでの活動が、私にとって何よりの刺激でした。4人程度の少人数のグループだったので、一人ひとりの意見や行動がとても大切でした。初対面の人でも、ベトナム人学生でも遠慮なく意見を交わし、他愛のない会話をすることが私の自信につながりました。私は高校2年の夏に、高校主催のオーストラリア研修のメンバーに選ばれなかったことがきっかけで、GETのベトナム研修の存在を知りました。何となく挑戦してみようという気持ちで参加したベトナム研修でしたが、今ではこの出会いにとても感謝しています。



~ 社会勉強もできる ~

異業種交流会や若者力大賞では社会勉強ができました。今までのLEPの活動とは違い、日本で働く社会人の方が多くいらしゃったので、社会人同士の接し方や話し方を目の前で見る事ができました。学生がこれらのイベントに参加したのは今回が初めてだったということで、自身が行っているイベントの説明をしてくださる方がいたり、社会人としてのルールを学校のような感覚で優しく教えてくださったり、学生のうちにした方がいい事などのアドバイスも頂きました。大学生になったら、このような社会人の方も参加するイベントに積極的に足を運び、日本で働く上で必要になってくる力を身につけていきたいです。



~ 今後について ~

これから挑戦したいことは、一人旅です。特に世界遺産にたくさん訪れたいです。とにかくたくさんの場所に行き、自分の目で見て、視野や価値観を広げたいです。このように一人で色々挑戦してみようと思えたのも、LEPでの活動が原点にあります。素敵な経験がありありがとうございました。



# さくらサイエンスプラン

Japan-Asia Youth Exchange Program in Science

当協会は、国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) が科学技術の学びを通して日本とアジアの若者同士の交流を深めることを目的として行っている「さくらサイエンスプラン」を活用して、東南アジア諸国や中国からの学生の来日研修を行っています。2019年度はインドネシアと中国から研修生を招へいしました。



●インドネシア人研修生



●中国人研修生

## インドネシア Indonesia

**実施期間:** 2019年10月25日(金)~10月31日(木) 7日間  
**対象者:** 合計 17名 インドネシア人高校生 (男性7名、女性6名)、同行者 (男性1名、女性1名)  
**現地協力機関:** KAPPIJA-21 (JICA 青年研修インドネシア人帰国生同窓会組織)

常夏のジャカルタから秋本番の日本へ、元気いっぱいやってきたのは、15名の高校生と2名の同行者。日本に来るのはほとんどが初めて。ジャカルタで簡単な日本語や日本文化について事前学習を済ませ、期待を抱いて来日しました。

7日間の研修では、日本科学未来館や

三菱みなとみらい技術館などの科学技術に関する展示を見学し、江戸東京博物館や浅草散策などでは日本文化に触れ、日本製鉄(株)鹿島製鉄所では実際に製鉄工程を見学するなど、様々な体験をすることができました。

また、海外研修 GET に参加した学生

(計9名)も研修のサポートに参加し、見学施設を一緒に回ったり、英語で会話をしたり、日本についての質問に答えるなど、若い世代の国際交流も活発に行われ、両国の学生たちにとって思い出に残る7日間となりました。



1. ジャパン・リニューアブル・エナジー(株)太陽光発電所(美浦村)を見学。
2. 東京経済大学(国分寺市)を訪問。日本の大学の充実した施設にビックリ! 留学意欲が湧いた学生も。
3. 海外研修 GET の参加者が研修をサポート! 国を超えてたくさんの友達ができました。

## 中国 China

**実施期間:** 2019年11月25日(月)~11月29日(金) 5日間  
**対象者:** 合計 15名 中国人高校教師 (男性7名、女性6名)、引率者 (男性1名、女性1名)  
**現地協力機関:** 中日青年交流中心 (北京)

当協会と長年の交流をもつ、北京の中日青年交流中心から現役の高校教師を招へいしました。

科学や情報技術などを教えている現役の先生ということで、「どのように生徒たちに科学に興味を持ってもらうか」「どのように科学を教えればよいか」についてこの

研修を通して学びたいと、熱心に展示を見学したり、講義に耳を傾けていました。5日間という短い期間でしたが、科学技術に関するだけでなく、日本の企業や学校についても理解を深めることができました。「中国と日本は近くて文化も似ている部分があるので、これからは国や人同士が

交流していくべきだ」「最初に想像していた日本と、実際に来てみて感じたことは違った」「帰国後は、日本を留学対象国として学校で検討したい」などの感想があり、日本で学んだことを活かして、中国での教育・指導方法をより良くしていきたいという意欲を感じました。



1. 日本製鉄(株)鹿島製鉄所で製鉄工程を見学。製鉄所内の挨拶「ご安全に!」など、安全管理の大切さ学びました。
2. 日鉄エンジニアリング(株)本社(品川区)で同社の事業や社会貢献活動について学びました。学生向けの職場訪問や教育プロジェクトなどの多くの社会貢献活動に刺激を受けました。
3. 浅草を散策。科学技術以外にも日本文化について理解を深めました。

# AJAJFA-21

ASEAN-Japan Friendship Association for the 21st Century

かつての JICA 青年研修生による同窓会組織「AJAJFA-21」(ASEAN-Japan Friendship Association for the 21st Century) との交流は現在も続いており、2019年度の青年交流フォーラム「RLF」(Regional Leaders Forum) にも当協会が日本メンバーとして参加しました。



## 第25回 青年交流フォーラム「RLF」

**実施期間:** 2019年10月4日(金)~10月7日(月) 4日間  
**対象国:** ASEAN加盟国(10か国)、日本※ブルネイ、シンガポールは欠席  
**開催地:** インドネシア バリ島  
**議長団体:** KAPPIJA-21 (JICA青年研修インドネシア人帰国生同窓会組織)  
**開催日程:**

<b>[1日目]</b> 10月4日(金)	到着 懇親夕食会 開会式 ・バリ観光省によるプレゼンテーション ・各国代表による文化紹介 文化遺産見学 ・ウルワトゥ寺院でヒンドゥー教の文化(ケチャックダンスなど)を見学
<b>[2日目]</b> 10月5日(土)	環境保全活動 ・クタバビーチで清掃活動 文化遺産見学 ・タナロット寺院を見学 閉会式 ・次回開催国へ団旗の受け渡し ・JICAインドネシア事務所
<b>[3日目]</b> 10月6日(日)	
<b>[4日目]</b> 10月7日(月)	帰国



年に一度開催される「RLF」が、今回はインドネシアのバリ島で開催されました。各国の若い世代間の交流やテーマに沿った発表・議論などを目的として毎年開催されていますが、今回の参加者は開催国側のスタッフも含めると約200名となりました。

「ASEAN-日本間の友情やパートナーシップの強化」をメインテーマに、各国の文化紹介、テーマに沿った発表、開催地バリ島の文化遺産見学など、4日間にわたり様々なプログラムが実施されました。

- 「1日目」開催地バリ島に到着。計9か国(議長国インドネシア、カンボジア、日本、ラオス、ミャンマー、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム)が一室に集まりました。



●「2日目」議長国インドネシアの同窓会組織「KAPPIJA-21」Mulyono Lodji 会長が開会を宣言し、4日間にわたる今回の RLF が始まりました。



●「3日目」RLF開催地バリ島のクタバビーチで清掃活動を行いました。



●「3日目」閉会式では、今回の RLF 議長国インドネシアから次回(第26回)議長国となるラオスへ、団旗が手渡されました。



●「3日目」国を超えた交流ができ、各国の友情も深まりました。

## 第41回 TV会議

**実施期間:** 2019年12月19日(木) 11:00~13:00(日本時間)  
**対象国:** ASEAN加盟国(10か国)、日本  
**場所:** 各国JICA事務所

約3か月ごとに開催される TV 会議は、各国の JICA 事務所にある TV 会議システムを利用して行われています。第41回 TV 会議も去る12月19日に開催され、2月に開催される「ECM」について議論が交わされました。



●JICA 本部(竹橋ビル)の協力のもと、当協会も参加しました。

## 第32回 代表者会議「ECM」

**実施期間:** 2020年2月21日(金)~24日(月・祝) 4日間  
**対象国:** ASEAN加盟国(10か国)、日本※日本、ブルネイ、シンガポールは欠席  
**開催地:** タイ バンコク  
**議長団体:** FYAA (JICA青年研修タイ人帰国生同窓会組織)

当協会も日本代表として参加予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で急遽参加を取り止めました。

